

新宮山彦ぐるーぶ第2010回
熊野・有馬トレイルを歩く

◇実施日…2019年02月17日(日) 晴

◇参加者…沖崎吉信、生熊敏男・千満子、高階美根子、畑清子、

上村和美、湯川一郎、濱野兼吉、松本吉殖、竹中卓治、

山川治雄・白妙・自知、小山芳子、中村けい子、

梶野照雄。

16名。

有馬トレイルなんといいいネーミングだろう。参加の案内を聞いた時に絶対参加するぞ！と決めた。トレイルとは山道や原野をオートバイで走ること、または山道のことらしい。

私は勝手に有馬の周辺の山道を、七里御浜や有馬の町並み周辺の山々を眺めつつ、のんびり楽しみながら早春の山や里をまわるウォーキングと自分の頭に描き、新しく国土地理院の2万5千分の地図も買い、ルートを想像してみた。



出発前の挨拶



登り始める

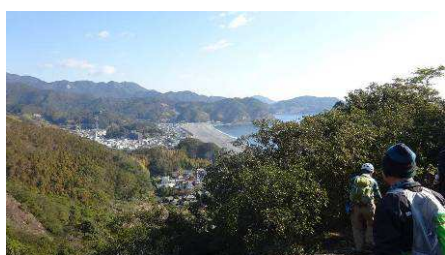


約20分で稜線へ

新宮組は沖崎さんの車に松本さん、途中畑林、上村さんを乗せ、

湯川さんには生熊夫妻、堺から前泊の梶野さんの車には濱野が乗り込み8時過ぎに出発。花の窟の北側駐車場に着くと海山からの高階、竹中さんが先着し待機している。間もなく山川さん夫妻ご子息自知さん、小川、中村さんに乗せ到着。

出発に先立ち沖崎代表より今年は山彦も山を楽しむ行事も何回か取り入れていきたいと挨拶され、山川さんより有馬トレイルにはいくつかのコースがあるが、今回は5時間コースを歩くと紹介。駐車場から路地をぬけ線路を越え、羽市木高台への津波の避難路を登る。避難路にしては急峻で高齢者には厳しいなと思いがながら登るが、なにはともあれ命が大事。便利で安全なことに越したことはないが、自然界にはそんな便利なものはないとわれわれは肝に銘じなければならぬ。雑木と杉や檜の間を縫って登ると程なく稜線にでる。



花の窟山頂から七里御浜一望と鬼ガ城方面

三等三角点(有馬)

稜線を海側に向かってすすむと丁度花の窟の天辺あたりに岩場があり、ここに続く道には歩きやすいように石が歩幅に削られている。山頂からは七里御浜の海岸線の絶景が眺望できる。さらにその先にも道が続いている。イザナミ、イザナギ神話の世界の頂

上にこんなひらけて明るい世界があつて、この岩場のどこに黄泉の国に通じる穴があるのだろうか選んでみたい気がする。



稜線をたどる



関電鉄塔からの眺望



舗装林道を歩く

もとの稜線にもどると山川さんより、土が掘られ石が積まれた狼煙場や、この近辺には馬にまつわる地名が「有馬」「馬の戸」「馬場平」「馬止」「大馬」等沢山あるとの説明を受けた。

稜線をしばらく歩くと歩くと点名；有馬の三等三角点標高187.6mに着く。三角点は現在四等までであり、一等三角点は90m、一辺が18mの石柱地上に出ている部分が21m、地下部分が73mの深さで、上に掘られた十字は東西南北を指すように据えられている。一等三角点は補点を含め全国に972点ある。二等、三等三角点は一編が15mで、四等まで含めると全国に103284点(2003年現在)ある。三角点は山の高さを測量するものではなく、あくまで地図の作成と測量のためで、最高地点は赤石岳。標高3120m。現在は航空測量が一般的であるが、今でも利用はされている。

さらに稜線を進み馬場平、猪の落とし穴や炭焼き窯跡などを過ぎ、眺めのいい関西電力木本線47番鉄塔で休憩。日差しは暖か

く風もなく、お菓子差し入れや生熊千満子さんがコーヒをポット入れ持ってきて御馳走になる。山川さんからは遠くに見える烏帽子山、光ヶ峰、大雲取山、子の泊山などの場所の説明を受ける。アスファルトの道路に出てポツリポツリと点在する家々を過ぎると薬師堂と庚申さんがあり、山川さんのお姉さんの家で昼食。昼食は屋内組と屋外組に分かれ、私たちは屋外でとる。



山川氏山荘で昼食



本日の参加者



古道を下る

この家の庭には幹周り数m、樹齢何百年という大きな桜の株があり、風で倒れて家屋の屋根の梁が壊れ、梁を入れ替え補修したとのこと。この桜生きているらしく、小さな枝が芽を出している。なんとか復活して桜の花を咲かせて欲しいと願うものだ。

午後からは山川さんが通学や通勤で歩いた石段の古道を「まないたさん」にくだる。この「まないたさん」は子授けの御利益があるらしく、遠来よりお参りに来る人も多く、御利益を授かった方はまたお礼においでになるとのことである。「まないたさん」は重なった岩の少し奥まった所に、まないたのような岩が直立している。このまないた状の岩も珍しいし、また直立している状態もまたまれである。なんで子授けなのかよく分からないが、穴の中で直立するは、女性と男性の関係と深読みすれば、しっかり仲

むつまじくセックスに励めば、子どもが授かりますよとも理解できる・・・。



「まないたさん」に立ち寄る 古い墓にお参り 石積が残っている
 ここからさらに下って、有馬のお寺の高名な住職が分骨をして祀られている場所があるというので、道から外れ支尾根を下る。石塔があるが、随分古い物らしく石塔に刻まれた文字も風化して読むことができない。



ミカン畑を下る

市街地に下山

花の窟の上部

生熊敏男導師の勤行で般若心経を唱えお参りする。元の道に戻り下って山道を出た所で休息。ここからミカン畑を水路に沿って歩き、本格手に農道に出る。デコポンやアマナツ、ハッサクの最盛期であるが、鈴なりのミカンも採られることなく放置され、ミカンの木が切り倒され、高齢化と次世代に繋げられない農業の実態を知ることができる。また動物による獣害対策も大変だからという深刻な状況が窺える。農道の最後急な登りがありセメントやアスファルトの道を登山靴で歩くのは、しんどく疲れいやなものである。

最後の休息をして山道に入り、雑木林と孟宗竹の林を抜け有馬の町に出て、駐車場に戻る。



駐車場に帰着



有馬トレイル・ルート図

山川さんの想いが通じるトレイルであった。自分が生まれ育ち学校に通い、辛かったこと楽しかったことが一杯詰まった思い出の道。今日は有馬の「三丁目の夕日」が詰まった有馬ののどかな風景を楽しむことができた。

特に気にかかったのが孟宗竹の繁茂である。椎や檜の木を中心とする照葉樹林の森も、孟宗竹に駆逐されていく姿は見るに忍びない。早急な対策が櫃なのではとも感じた。

最後に最初の駐車場では話題になった。「岳人」3月号に「山彦」の紹介記事が出ている。3月号の特集が「巡礼の道」で熊野古道小辺路なのでそこは読んでいたのだが、36ページに掲載されていた「巡礼の山を支える人々」の紹介記事は見逃していたのは残念であった。早速帰ってページを開き読んだ。

行動タイム

新宮発8:00→8:40花の窟・北側駐車場→9:00→9:30狼煙場→9:55
点名「有馬」三角点→10:05鉄塔No.47→11:25薬師堂→11:30
昼食(山川さん山荘)12:15→12:25まないたさん→山道を出た所
13:05→農道最後の場所休憩13:40→14:15北側駐車場解散。

(記:濱野、写真:梶野)